

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成25年度採択分）
「天然薬物に関する研究成果発信のグローバル化促進」
（課題番号：252023）

学術団体名：一般社団法人 日本生薬学会
学術刊行物の名称：Journal of Natural Medicines
事業期間：平成25年度～平成29年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本生薬学会が発行するJournal of Natural Medicines誌は、これまで国内および諸外国における生薬学・天然物科学研究の成果を集約・発信し、我が国にとどまらず諸外国の本領域の研究水準の発展と学術交流に貢献し、国際誌としての地位を確立しつつある。本事業では、以下の取り組みにより、本領域における主要ジャーナルとしての国際的地位の確立を目的としている。

- ①国内外の先端的研究者によるReview（総説）を掲載する。
- ②外国人編集委員および外国人レフェリーの割合を増やすことによる国際的な公平性、透明性の向上を図る。
- ③電子投稿システムのさらなる改良による、投稿・審査の利便性の向上を図る。
- ④海外での広報活動の強化を図る。
- ⑤選抜論文のオープンアクセス化を試み、無料でダウンロード可能にする。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

以上の取り組みを行うことによって、本誌掲載論文のダウンロード数、被引用件数を増やし、3年後にインパクトファクター（IF）が1.6程度、本事業終了時に2.0以上になるように努める。また、3年後には外国人編集委員の数を応募時の5名（編集委員総数は27名）から8名まで増やし、外国人レフェリー数が総レフェリー数に占める割合を10%まで増やす。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- ①国内外の先端的研究者による総説を掲載した。
 - ②外国人編集委員は平成27年11月中に7名まで増員され、ほぼ計画どおりにすすんでいる。外国人レフェリー数の総レフェリー数に占める割合が応募時の4.0%から16.8%に増加し、3年目の目標10.0%を達成している。
 - ③電子投稿システムについては編集委員の意見や満足度アンケート調査の結果にもとづいて、随時改良を進めている。
 - ④海外での広報活動の強化の一環として、海外基幹大学や基幹研究所等へ本誌冊子体の無料配布を実施した。第8回日中韓生薬学合同シンポジウム（福岡、2014年9月）、The Inaugural Symposium of the Phytochemical Society of Asia 2015（徳島、2015年8月）などの国際シンポジウムにて本誌のPR活動を行った。
 - ⑤Original Papersの中から、各年3編の論文を編集委員会がExcellent Papersとして選考し、学会ホームページ、本誌サイトのトップページ上で公開し、2カ月間無料でのダウンロードを可能とした。編集委員会が選んだ優れた論文をオープンアクセス方式で出版できるように経費を支援した。
- 以上の事を取り組んだ結果、本誌掲載論文の被引用件数が増加し、IFは応募時の1.389から現在1.593まで上昇しており、3年目の目標をほぼ達成した。

・今後の計画

これまで実施してきた取り組みを継続し、本誌の国際情報発信力を強化することによって、IFに関しては、事業終了時の目標(2.0)を目指す。掲載論文の被引用件数およびIFの向上のため、国内外の先端的研究者による総説や優れた論文に対してオープンアクセス化の支援を行う。平成28年度6月頃に大村 智氏のノーベル医学・生理学賞受賞記念号の刊行を予定している。